

今月の谷口雅春先生のお言葉

「できる」「思うものが」「必ずできる」

「成ろう」と「成れる」との相異そうい

立身出世の秘訣ひけつ

誰たれでも偉い者に「成ろう」とは思うのですが、そのうちの極ごくわずかな人だけしか偉くなれないのは「成ろう」と思う考えは捨てていくせに、「成れる」という考えを何時いつの間にか捨ててしまうからです。そしていつの間にかそんな人は、

「成ろうと思うけれども成れぬ」と言うのです。そして、そういう人はとうとう偉い者には成れぬのです。

これで「成ろう」と「成れる」との相異そういが判わかったであります。 (光明思想社版『人生読本』310頁)

皆さん成功の秘訣も、立身出世の秘訣もここにあるのです。「精神せいしん一到いつとう」とは、どこどこ迄までも、ただ成れる——成れるで突き貫とおすことです。

「心」で「成れる」と信じたときには、心のフィルムではすでにそう成っているのです。心のフィルムに描かれたことは必ず活動写真に映し出されるように、この世の中に本当に出てくるのです。しかし、自分がこうあって欲しいことがまだ本当に出て来ないうちに、「成れる」という考えを捨ててしまつて、「成れぬ」という考えに

いつの間にか成ってしまったら、その「成れぬ」という考えがこの世に出てくるのですから、運は悪くなるのは当然です。

(光明思想社版『人生読本』310～311頁)

## クーエの話

フランスのナンシーという町に、エミール・クーエという薬剤師がいました。薬剤師というのは、この薬はこういう成分が入っているから、こういう病気に効くということの研究した専門家です。或る日、クーエのところへひとりの病人が薬を買いにまいりまして、「こういう名前の薬が欲しいから売ってくれ」と申しました。するとクーエの店にはその名称の薬はありましたが、もう古くなって成分が変わっているから、その薬だけの効目がないことは明かでした。クーエは「今その薬はあるにはあるが腐ってしまったって成分が変わっているから、売ってあげても効きません」とお断りいたしました。するとその病人は「その名前の薬であればキクのだから、腐っていても何でもよいから売ってくれ」と言いまして、とうとうその薬を無理に買って帰りました。数日すると、その

病人はクーエの処へお礼にまいりました。「あの薬をのんだら、お蔭で病気が治りました」と言うのです。

クーエはびっくりしてしまいました。なぜならその薬は腐って性質が変わってしまったって、もう効かなくなっていることが、薬剤師の自分にはよく分っていたからです。「効かないはずの薬がなぜ効いたか」クーエは考え始めました。

(光明思想社版『人生読本』311～312頁)

## 「治りたい」と「必ず治る」との相異

「効かないはずの薬がなぜ効いたか」皆さんも考えてみてください。それはその病人が「この名称の薬なら必ず効く。そして病気が必ず治る」と思ったからです。

この病人は今まで多くの病院を渡り歩いて来ましたが、病気は重くなる一方で治らなかつたのです。なぜ諸方の病院を渡り歩いたかと申しますと、「治りたい」と思ったからです。しかしどういふものかこの病人は治らなかつた。病院のくれる薬も服んでみましたが、どういふものか治らなかつた。それは「治ろう」と思っても、「必ず治る」と信じなかつたし、「必ず効く」とも信じな

かったからです。「治りたい」と心に思っても、「治る」と信じなかったら、効きもしないし、治りもしないので。「成ろう」と思っても「成れる」と信じなかったら、成功もしないし、立身出世もしないのもそのためです。

(光明思想社版『人生読本』313頁)

## 自己暗示法

言葉というものは不思議な力を持ったものです。「あなたは温順おとなしい良い子ですね」と言いますと、その子供は温順おとなしくなります。「この子は悪戯いたずらツ子こで仕方がない子ですよ」と言いますと、その子供はますます悪戯いたずらツ子こになります。これを言葉の力と申します。言葉というものは、それを聴く人の心に、その言葉のとおり心を流し込む役目をするのです。

(光明思想社版『人生読本』315頁)

## 言葉を心に服のませる法

朝眼が覚めてまだ寢床から出ない前と、寢床に入って

もう眠くなってきた自分に、「これから毎日一層全ての点で自分はよくなる」という言葉を自分にだけ聞えるくらいとよの小さな声で、二十ぺん口のうちに唱となえて自分に聴かせて、「ほんとうにそうだ。必ずよくなる」と心から思い込むようにするのです。これが「精神せいしん一到いつどう」です。心で「必ずよくなる」と思い込んで、最後までその思いを変えなければ必ずよくなるのです。(中略)一日か二日位ぐらゐそれをやってみて、「こんな事でよくならぬ」と思っ

て捨ててしまつてはなんにもなりません。それでは「よくならぬ」という心を服のんだことになりますから、その心の通りにすべて「よくならぬ」ということになつてしま

まいます。(中略)

人間は、なりたいものになれるのではなく、なれると思ふものになれるのです。

人間は、しようと思ふものが必ずしもできるのではなく、できると思ふものが必ずできるのです。運がよくなり、偉くなり、達者になり、立身出世できるようにするには、精神の生かし方を知らねばなりません。

(光明思想社版『人生読本』316～317頁)